

札幌皮膚病理研究所ニュース



2006年10月号

今月の研修生



8月29日から9月1日まで
細根勝先生
(日医大多摩永山病院病理部)



9月4日から8日まで
高橋依子先生(札幌厚生病院皮膚科)
桜井直樹先生(東京大学皮膚科)



9月11日から14日まで
横田美樹先生
(University of California)

研修医日記

上記でもご紹介しました 桜井先生、高橋先生より研修医日記を投稿いただきましたので、一部抜粋してご紹介します。全文はホームページに掲載しておりますので、そちらもぜひご覧ください。

桜井直樹先生(東京大学皮膚科5年目)

私は今まで病理について系統だって教えてもらった経験が無く、自分で3,4冊の日本語の教科書を読んだ程度でしたが、臨床を続けていくにつれて、病理をみることの必要性和、病理をみれないことへの焦りとを日増しに強く感じていたため、今回エントリーいたしました。

全国から集まってくるスライドを木村先生・安齋先生と一緒に顕微鏡でみながら、なぜそのような診断を下すのか具体的な根拠を挙げて説明していただきました。その根拠を挙げて診断を鑑別していくというスタイルが今までになく非常に合理的で、目の前にかかっているもやが晴れていくかのようなでした。これまで自分がスライドをみる時、先に臨床診断をみてから顕微鏡を覗き、「まあcompatibleでいいんじゃない?」としていたのとは全く違い、非常に科学的でした。また一枚のスライドをすごく丁寧だけれどもスピーディーに片付けていく診断風景にも感激しました。みるスライドの量も疾患も多く、数えてみたら「皮膚病理組織診断学入門」の疾患112のうち59を5日間で網羅していました。(112に含まれていない疾患も非常に多かったです。)スライドも数百に及んでいたと思います。

今回だけで皮膚病理がすぐにみれるようになったなどと甘いことは全く考えていないですが、今後どのように病理を考えていくべきかについては自分なりに吸収できたのではないかな、と思っています。また木村先生が雑談と称してされる会話の中にも様々な含蓄があり、皮膚病理にとどまらず非常に刺激的でした。

またまとまった時間を作って、お世話になれば、と思っています。どうもありがとうございました。

高橋依子先生(札幌厚生病院初期臨床研修医2年目)

私は、皮膚科を専攻することを決定し、現在、厚生病院の初期研修のうち皮膚科を8ヶ月選択して勉強中ですが、その研修の一環として、札幌皮膚病理研究所でお世話になりました。

月曜日は週初めで最も多く、90前後ということでした。火曜から金曜は月曜日に比べ検体数は少なかったけれども、セカンドオピニオンの検体数も多く、また、まれな疾患(メルケル細胞癌など)も数多くにすることができました。また、水曜日の北大のカンファレンスに参加させていただいたことは、とても有意義でした。北大のカンファレンスは病歴、臨床像、病理の流れがしっかりと把握でき、討論もアクティブなもので、こうした他大学のカンファレンスに参加させてもらったという経験は、自分のこれからの皮膚科の勉強をしていくうえでの意欲が高まりました。また、北大病理部の検討会にも参加させていただき、一週間で非常に多くの検体数、疾患数を見ることができました。今回、私は初期研修中に一週間研修をさせていただき、今後皮膚科の勉強をしていくにあたって非常に価値のある経験となりました。

数年先に何が必要となってくるか、そして将来どのような皮膚科医になっていきたいか、そんなことを漠然とでも形として思い描いて勉強していくきっかけとなりました。そして数年後やその先の将来のために今の私がすべきことをかなり明確にすることができました。

本当に有意義な一週間でした。どうもありがとうございました。そしてこれからも、宜しくお願いいたします。

今後のスケジュール

- 2006.10.14(土)~15(日) 第70回日本皮膚科学会東部支部学会
会場 青森県弘前市 ホテルニューキャッスル
CPC座長 木村鉄宣
演題発表 安齋真一「脂腺癌(Sebaceous carcinoma)の臨床病理学的検討」
- 2006.10.21(土) 第8回京滋難治性皮膚疾患研究会
会場 ウェスティン都ホテル京都
講師 木村鉄宣

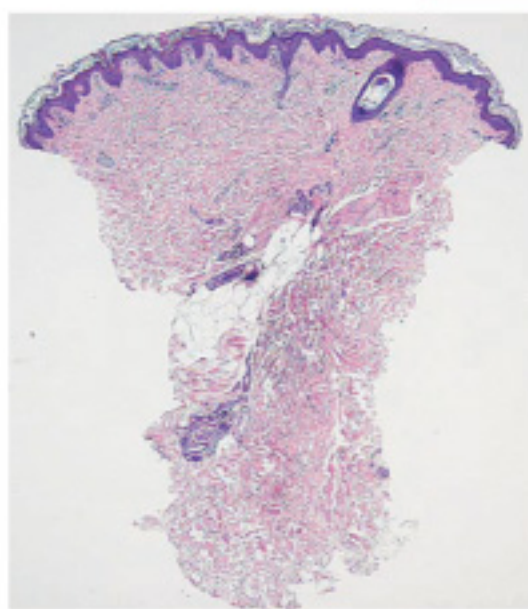
特別講演「Basal cell carcinoma: 基底細胞癌の臨床病理分類」
ミニレクチャー

- 1, 「Basal cell carcinoma: 基底細胞癌とTrichoblastomaの鑑別—文献的考察」(大津赤十字病院 松原邦彦先生)
- 2, 「Basal cell carcinoma: 基底細胞癌は本当に悪性腫瘍か?」(京都大学 谷岡未樹先生)

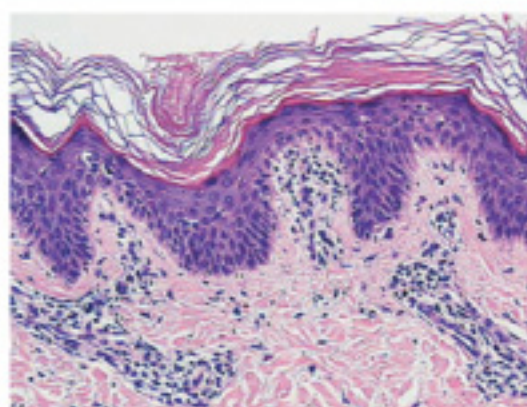


今月の症例

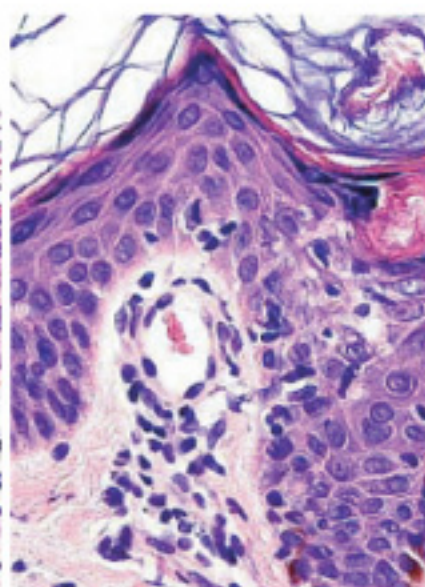
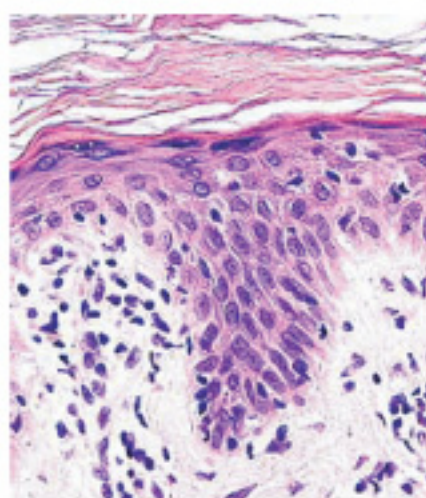
女性 生検部位：四肢 臨床診断：Parapsoriasis?
病理組織診断：Mycosis fungoides, early patch stage



真皮上層の血管周囲性に細胞浸潤がある。



表皮角層は basket-wave pattern を示す。
浸潤細胞はリンパ球が主体で、表皮内にも浸潤している。
真皮乳頭層の膠原線維の増生は目立たない。



表皮にリンパ球が浸潤している割には spongiosis が
ない。表皮内リンパ球に著明な核異型はない。

注：角質の変化や spongiosis が少ない（あるいはない）のにリンパ球の表皮内浸潤が見られるときは MF
や ATL (adult T cell leukemia) を疑う。
早期の MF では表皮内リンパ球の異型や Pautrier's
microabscess の形成がなく、真皮乳頭層の膠原線維
の変化も目立たない。

参加者受付中

セミナーのご案内

セミナー開催日 1ヶ月前までのお申込みには早期申込割引が適用されます！

第14回札幌皮膚病理セミナー ―世界の皮膚病理学と皮膚病理医―

Spitz母斑で出現する所見として有名なKamino bodyの発見者でもある
ニューヨーク大学教授のDr. Hideko Kaminoにお越しいただきます

開催日 2006年12月1日（金）[特別講演] 2日（土）、3日（日）[セミナー]

特別講演タイトル "Interesting Fibrohistiocytic Proliferations"

会場 北海道大学臨床大講堂 参加費 32,000円

講師 Hideko Kamino, M.D. (Professor of Dermatology and Pathology / NYU school of Medicine)

プログラム

- 1 Compare your diagnosis with Dr.Kamino ;
当研究所で選んだ興味深い症例を事前にホームページに掲載いたしますので、まずはご自身で診断をつけてください。当日、参加者はDr.Kaminoの診断の過程を見ると共に自分の診断と比較することができます。
- 2 Consultation to the expert ;
参加者より事前にコンサルテーション症例を募集し、その場でDr.Kaminoに症例の診断をつけていただきます。
- 3 Great cases from New York University School of Medicine ;
Dr.KaminoよりNew York University School of Medicineで経験された興味深い症例を紹介していただきます。
- 4 Dr.Kamino's new concepts and ideas in Dermatopathology ;
Dr.Kaminoのnewコンセプト・newアイディアをご紹介します。



Melanocytic lesions と Fibrohistiocytic neoplasms を中心にしたセミナーです

新着情報はホームページ (www.sapporo-dermpath.com) で随時紹介されます。

札幌皮膚病理研究所

〒001-0018 札幌市北区北18条西3丁目2-21 TEL: 011-756-4810 FAX: 011-756-4842
e-mail: office@sapporo-dermpath.com website: <http://www.sapporo-dermpath.com>

編集担当：高野 敦子